

さけ・ます資源管理連絡会議の概要

としま ただよし
戸嶋 忠良（企画課情報係）

当センターでは、成果の発表と業務に対するニーズ把握等を目的に、平成17年8月4日札幌において、さけ・ます資源管理連絡会議（以下「連絡会議」）を開催しました。連絡会議には、さけ・ますふ化放流事業に関係する行政機関、試験研究機関、増殖団体等から121名の方々にご参加いただきました。

主催者を代表して跡部理事長が挨拶し、来賓を代表して水産庁長尾栽培増殖課長から挨拶を受けました。そして、野川総括部長を座長に以下の8課題について報告と質疑応答を行いました。

1. 北太平洋におけるサケ・マス資源と海洋環境
2. 平成16年度におけるサケ来遊資源の状況
3. サクラマスの生態と資源
4. サクラマスの標識放流試験
5. サクラマス資源の現状と資源回復に向けた今後の取り組み（展望）
6. 岩手県沿岸におけるサケ幼魚の移動に関する調査について
7. アークイバルタグによる回帰サケの行動調査
8. 国産サケと輸入サケの需給動向について

まず、北海道区水産研究所の福若主任研究官から北太平洋及びベーリング海におけるサケ・マス資源と海洋環境に関する最新の情報が提供されました。また、当センター吉光係長は各道県より提供されたデータや年齢別の回帰尾数の解析結果に基いた平成16年度におけるサケ来遊資源の状況を報告しました。

北海道立水産孵化場のト部研究員からダムを設置がサクラマス資源へ与える影響評価のために開発された河川内の環境収容力を推定する手法とその有効性について、また、社団法人北海道栽培漁業振興公社の眞山技術顧問からサクラマスの成長段階別の標識手法とそれらを用いた調査から得られた知見について紹介がありました。当センター大熊室長はサクラマスの資源造成のためにこれまで行われてきた取り組み、放流数と資源量の推移からみた現状と問題点及び資源回復のために今後取り組むべき研究課題等について総説しました。

続いて、岩手県水産技術センターの高橋専門研究員から岩手県沿岸におけるサケ幼魚の初期減耗



平成17年度さけ・ます資源管理連絡会議での発表。

を把握するために実施された耳石温度標識魚の追跡調査と環境モニタリングの結果について情報が提供されました。また、当センター長谷川室長は遊泳水深、水温情報を記録できるアークイバルタグによって得られたデータにより解析したサケの行動と水温分布の関係等について、同じく清水室長はわが国のサケ・マス類の需給構造の変化、国産秋サケ産地価格の短期及び長期の変動要因、秋サケ価格を巡る経済要因の因果関係等（詳細は本文3-7頁参照）について報告しました。

最後に出席された関係機関の方々から頂いたご意見・ご要望に対し担当課長より対応等について説明を行いました。この中で、富山県水産試験場から出された「サクラマス資源回復に関する調査研究の問題点」の指摘があり、関係機関と連携しながら地域や産業のニーズに応えられるよう取り組んでいくこととしました。また、(社)本州鮭鱒増殖振興会から出された「本州各県に対する技術指導の継続」の要望に対しては、統合法人に引き継ぐ方向で検討中であることを説明しました。

なお、「さけ・ます資源管理連絡会議」は今回でひとまず終了となりますが、今後のさけ・ますに関する会議等をより充実したものとするため、参加者を対象にアンケート調査を行いました。統合後におきましては、よりよい形で関係機関の皆様方との意見交換、情報交換の場を持てるよう検討して参りたいと考えておりますので、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。